

【樹木の部屋】

ビワ(バラ科ビワ属 *Eriobotrya japonica*)

和名 ; ビワ(枇杷) **別名** ; **英名** ; Loquat

バラ目 常緑高木 **原産地** ; 中国

花言葉 ; 温和、治癒、あなたに打ち明ける、内気、ひそかな告白、静かな思い

花の色 ; 白

← 写真－1 ビワ

撮影日 : 2020年04月19日

撮影場所 : 大和郡山市郊外にて

撮影者 : Mさん



↘ 写真－2 ビワの葉

撮影日 : 2020年04月19日

撮影場所 : 大和郡山市郊外にて

撮影者 : Mさん



← 写真－3 ビワの幼果と葉

撮影日 : 2020年04月19日

撮影場所 : 大和郡山市郊外にて

撮影者 : Mさん

大和郡山市郊外の駐車場脇で見かけました。ほとんど手入れされていない様子でした。

原産は中国あるいは日本で、古い時代に日本へ渡来して民家で栽培されていたものが野生化したとする説と、日本に古くから自生していたとする説があるそうです。平安時代以前から日本にあったビワは小粒で酸味が強く、果実としての利用は乏しかったそうで、現在流通するビワは江戸時代末期に中国から渡来した「唐ビワ」を原種として日本で改良されたものだそうです。

日本では四国、九州に自生し、果樹としては九州、四国のほか和歌山県、千葉県(房総半島)、静岡県などで栽培されています。樹高は10mほどになり、葉は互生し濃い緑色で大きく、長い楕円形で厚くて堅く、表面が凸凹しており葉脈ごとに波打ちます。縁には波状の鋸歯があり、表面にはつやがあり、裏には産毛があります。

花期は11~2月で、花芽は主に春枝の先端に着き、純正花芽で、香りのよい白い5弁の花を群がって着けます。雌雄異株ですが自家受粉(単為結果)が可能で、初夏に球形から卵形をした黄橙色の実をつけます。果実は花托が肥厚した偽果で、全体が薄い産毛に覆われていて果実の中には大きな赤褐色の種子が数個あります。

種を蒔くと簡単に発芽するので、観葉植物として楽しむことも出来き、生長が速いので剪定で小型に育てると良いようです。

殖やし方は実生か接木ですが挿し木もできます。実生苗の結実には7~8年の歳月が必要です。剪定は9月。枝葉は春・夏・秋と年に3度伸長します。若枝は、淡褐色の細かい毛に覆われています。露地栽培の場合、摘房・摘蕾を10月、開花は11月~2月、摘果を3月下旬~4月上旬、袋かけを摘果と同時に行います。

長崎県、千葉県、鹿児島県などの温暖な地域での栽培が多いものの若干の耐寒性を持ち、寒冷地でも冬期の最低気温-10℃程度であれば生育・結実可能です。露地成熟は5月~6月。主な産地は「茂木びわ」で知られる長崎県と、「房州びわ」と呼ばれる千葉県などです。

<ちょっと一言>

*単為結果(たんいけっか) :

植物で、受精が行われずに子房壁や花床が肥大して果実を形成すること。

*純正花芽(⇔混合花芽)

花芽が、そのまま膨らんで開花する花芽

例：ウメ、サクラ

*混合花芽

花芽が生長するに従って新梢が伸び出し、葉をつけ、その頂部に開花する花芽

例：アジサイ

*花托(かたく)

被子植物で、茎が厚くなった、そこから花が育つ部分

*偽果(ぎか)

果実の分類の一つで、子房以外の部分が生長して果実の主要部分となるものの総称。仮果ともいう。

例：リンゴ、ナシ